

ふれあい

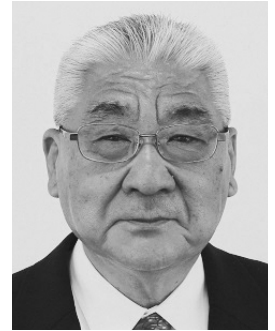
fureai

深谷市子どもサポート市民会議広報誌

令和4年3月号 No.18
(令和4年3月1日発行)

深谷市子どもサポート市民会議

事務局 深谷市子ども未来部子ども青少年課
〒366-8501 深谷市仲町11-1
TEL.048-574-6646 FAX.048-551-4480



深谷市子どもサポート
市民会議
会長 宮坂 浩平

令和3年度は、昨年会場で実施できなかった青少年健全育成深谷市民大会を開催することができたことを嬉しく思います。例年より縮小しての開催となりましたが、直接聴く中学生の力強い主張に大変心を打たれました。「3つの運動」標語コンクール、「家庭の日」ポスターコンクールでは、小学校から多くの作品が集まり、一生懸命に制作された作品は、どれも素晴らしい作品でした。

さて、新型コロナウイルスの勢いはとどまるところを知らず、今年度も本会議では多くの事業の中止を余儀なくされました。日常においても、人と人が繋がるのが難しい世の中ではございますが、子ども達の安全を守るため、地域の大人が力を合わせる事が重要であります。今後とも皆様のお力添えをお願い申し上げます。

安全・安心パトロール

深谷市子どもサポート市民会議では、小中学校の夏休み期間に、各地区の青少年健全育成会を中心に、地域の見守り活動として、安全・安心パトロールを実施しております。

また、これ以外にも、地域の実情に合わせて、青少年育成推進部会員の協力を得ながら、下校時の見守り活動や地域のお祭りでの活動も行っております。

しかし、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、深谷七夕まつりも中止となりました。そのため、例年実施していた深谷七夕まつり合同街頭巡視も実施できませんでしたが、安全・安心パトロールを実施できた地区がありました。

幡羅地区では、7月20日(火)にパトロールを実施しました。自治会長、地域防犯推進委員、民生児童委員、婦人会、PTA等の皆様の協力により、通学路や公園、遊歩道など、主要箇所をパトロールしました。

子ども達を見守るためには、地域の皆様の協力が欠かせません。子ども達が安全に、安心して日々を過ごしていけるよう、皆様のご協力をお願い申し上げます。

幡羅地区の安全・安心パトロールの様子



青少年健全育成深谷市民大会

12月12日(日)に深谷市民文化会館小ホールにて、「こども学びスタin深谷」が開催されました。その中で、令和3年度青少年健全育成深谷市民大会を開催しました。「中学生の主張」の他、手紙でつむぐ「ありがとう」の思い、「3つの運動」標語コンクール、「家庭の日」ポスターコンクールの表彰が行われ、盛況のうちに幕を閉じました。

令和4年度も青少年健全育成深谷市民大会の開催を予定しています。日程等は市広報、ホームページ等でお知らせしますので、皆様もご来場くださいますようお願いいたします。

中学生の主張

「中学生の主張」では、応募総数944点から選ばれた生徒がステージで自らの主張を発表しました。審査の結果、深谷中学校3年阿波連明里さんが最優秀賞を受賞しました。発表者の作品は、深谷市のホームページでご覧いただけます。なお、受賞者一覧は、下記のとおりです。

「中学生の主張」受賞者一覧

賞	学校名	学年	名前	題名
最優秀賞	深谷市立深谷中学校	3年	阿波連 明里	祖父母たちの判断～命の重さ～
優秀賞	深谷市立南中学校	3年	小暮 優衣	繋がる未来
優秀賞	深谷市立川本中学校	3年	橋本 圭織	選挙に行こう
優良賞	深谷市立豊里中学校	2年	石川 碧唯	経験
優良賞	深谷市立岡部中学校	2年	比田井 心暖	憧れ
優良賞	深谷市立花園中学校	3年	田沼 夢菜	笑顔とパワーのある人へ
優良賞	東京成徳大学深谷中学校	1年	高岡 うるい	I'll do my best
優良賞	深谷市立藤沢中学校	2年	塚越 健太	当たり前毎日に感謝を
優良賞	深谷市立上柴中学校	3年	北島 照葉	努力すること、諦めないこと
優良賞	深谷市立幡羅中学校	3年	津金 暖人	平和と平等
優良賞	深谷市立明戸中学校	3年	倉上 侑大	地球温暖化が生物に与える影響



「中学生の主張」受賞者記念撮影

「3つの運動」標語コンクール

深谷市子どもサポート市民会議では、「3つの運動」を掲げています。青少年が他者への思いやり、はじめやコミュニケーションの重要性を意識しつつ、心豊かに生活していけるよう、この運動を推進しています。本年度は、「3つの運動」の中の「ことばを大切にしよう」をテーマとし、小学4～6年生から作品を募集し最優秀賞、優秀賞受賞者を表彰しました。

市内19小学校
応募数2,722点
最優秀賞(1点)
優秀賞(2点)
優良賞(16点)
入賞作品は、深谷市のホームページでご覧いただけます。

脱いだ靴をそろえよう
すすんであいさつをしよう
ことばを大切にしよう

深谷市子どもサポート市民会議

最優秀賞

マスクでも
笑顔の言葉を
ことばを

桜ヶ丘小学校5年 大沢 飛悟



最優秀賞 大沢 飛悟さん
(桜ヶ丘小学校5年)

優秀賞

見えますか?

言葉がうつす あなたの心
豊里小学校 6年 梶原 陽太

優秀賞

人と人 結ぶ言葉を大切に

川本北小学校 6年 広瀬 暖々

最優秀賞作品紹介

「祖母たちの判断／命の重さ」



深谷中学校 三年
阿波連 明里

皆さんは、命の重さを感じたことがあるだろうか。戦争のことを考えたことがあるだろうか。

私は、この夏に一冊の本に出会い、命の重さや、戦争の悲惨さについて、改めて考えさせられ、気づかされた。その本は、灰谷健次郎の「太陽の子」だ。

この話は沖縄に住む六年生のふうちゃんという女の子が主人公だ。ふうちゃんが六年生に進級する頃から、父親の様子が少しずつ変わっていく。笑わなくなり、ふさぎ込む。時には、ふうちゃんを抱きしめて泣いたりする。今でいう「うつ病」だと思う。ある朝父親は、急に手を震わせ、何かを言いながら裸足で店に駆け下りた。ふうちゃんは父親の様子を見て、父親の心の病気の原因は、沖縄にある

のではないかと考える。母親たちに三十年前に起きた沖縄戦のことを聞くが、不思議なことに皆その話題を避けた。ふうちゃんは、自ら行動を起こし、沖縄戦を知り父の悲惨な体験から、命の大切さを知った。

私の父は、沖縄出身だ。コロナウイルスが流行する前は沖縄に毎年帰省していたが、今は電話のみになつている。この本を読んで、私は祖母に沖縄戦の話聞いた。沖縄戦が最も激しいころ祖母は三歳だったそうだ。父から「沖縄の人たちは、日本軍は南部にいるから、そこに行けば守ってもらえる、安全なはずだと聞いて南へ逃げた。けれど、タンメー、ウンメーちゃん私の祖母（母）たちは、日本軍がいるところは米軍に狙われる。逃げるなら北だと判断し、家族みんなまでほかの人々とは逆方向の北へ逃げた。その判断のおかげで家族は生き延び、今の自分たちがいる。」と聞かされた。今までも何度となく聞いてきたその話は、私の中では昔話であり現実味がなかった。しかしふうちゃんは、「沖縄の血が流れ

ている限りは、すべての事実を受けとめなくては」と思っている。私はどうだろうか。父や母に連れられ、平和記念館に足を運んだ時も、ひめゆりの塔を訪れた時も、残された写真や遺品のむごさに驚き、暗い気持ちになった。しかし、その後は過去の出来事としてしまっていたのではないか。もしも、沖縄戦で祖父たちが南の方向に向かっていたら、きっと今、自分はこの世に存在していなかったはずだ。

沖縄戦について調べていると、戦後何十年たつても、米軍機を見たり戦争のニュースを聞いたりすると怖い体験を思い出すなど、今でもトラウマになっている人が少なくないことを知った。ふうちゃんの父親もその犠牲者の中の一人だったのだ。戦後は親子三人で幸せに暮らすはずだったが、海岸で釣りをしたときに見た風景がづらい記憶を呼び起こし、過去と現実の区別がつかなくなる。それほど大きなトラウマを抱えていたのだ。

私は、今生きていることを、当たり前のことだと思っていた。しかし、沖縄戦である時祖母が北では

なく南へ逃げていたら、私は今、この世に存在しなかった。沖縄戦でたくさんの人が命を落としていなかったら、第二次世界大戦でさらに多くの人々が命を奪われることがなかったら、今この世界にはもつとたくさんさんの貴重な命が存在していたはずなのだ。気づいた。

沖縄戦の悲惨さと戦争を起こしてしまった代償を忘れてはならない。戦争は尊い命を奪い、生き残った人々にも癒えることのない深い傷を残す。しかし、今もこの地球で戦争や紛争は絶えることがない。どんな理由があつても、人が人の命を奪っていいはずがないのだ。戦争の悲惨さをわかっていても、今の私には止められないことが悔しい。しかし、反省や後悔だけにとどめず、これからにつなげていかなければならない。祖母たちがした私たちの命を守るための小さくても大きな判断を、私もしていきたい。私は、今自分がここに存在することに感謝し、命の重さを忘れず、私だからできる小さくても大きな判断をしっかりとしながら生きていきたい。

「家庭の日」ポスターコンクール

深谷市子どもサポート市民会議では、親子や家族のふれあい、絆をテーマにしたポスターを、小学生から募集し、最優秀賞、優秀賞受賞者を表彰しました。



最優秀賞 金井 悠真さん
(常盤小学校 2年)



最優秀賞作品
「おうちプールたのしいな」

市内17小学校 応募数610点
最優秀賞 (1点) 優秀賞 (2点) 優良賞 (14点)
入賞作品は、深谷市のホームページでご覧いただけます。

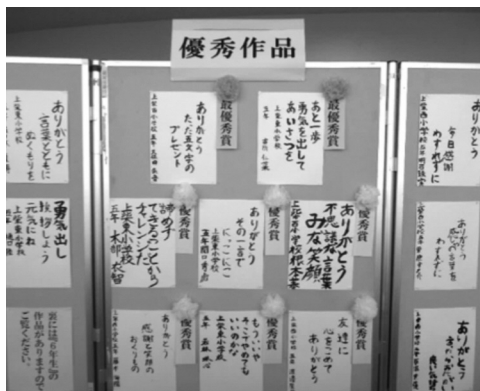
地区青少年健全育成会の活動紹介

—上柴地区—

上柴地区では、青少年健全育成会標語コンクール及び作品展示を行いました。上柴西小学校、上柴東小学校の5、6年生を対象に募集し、作品を審査後、上柴公民館ロビーに12月1日～12月28日の期間展示しました。

標語のテーマ

5年生：ありがとう、チャレンジ、勇気
6年生：つなぐ、スタート、感動



深谷市子どもサポート市民会議の紹介

平成18年、合併に伴い、旧1市3町で活動していた青少年健全育成団体が新組織として再編され、現在の名称となりました。「次代を担う青少年が、心身ともに、たくましく健やかに成長することは、わたしたち市民の共通の願いであるとともに、青少年を取り巻く地域社会全体の責務である」という考えのもとに活動しています。年間を通して「3つの運動」を呼びかけ、青少年たちがより心豊かに過ごせるよう、この運動を推し進めています。

現在、各地区青少年健全育成会を含め、66の団体がこの考えに賛同し、活動に参加しています。各地区青少年健全育成会には、埼玉県から委嘱を受けた青少年育成推進部会員の方も参加し、活動しています。

5月の評議員会に始まり、7月の深谷七夕まつり合同街頭巡視、夏休み時期の安全・安心パトロール、12月の青少年健全育成深谷市民大会等を主催しています。

地域での青少年健全育成活動がより活発になるよう努力しております。

深谷市子どもサポート市民会議は、地域の子どもの見守っています
緊急時には、子どもの安全・安心の確保にご協力を!



深谷市子どもサポート市民会議のホームページは、こちらの二次元コードをご利用ください。